

復興支援フォーラムニュース No. 41

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先 今野順夫 (tkonno67@gmail.com) 中井勝己 (024-548-8313) >

第38回ふくしま復興支援フォーラム (2013年5月23日) <「原発事故の惨状と新安全基準骨子案について」/伊東達也氏>で、寄せられたご意見等。

★3.11 からわずか2年余で、原発再稼働が取り沙汰される現状に、やはり東京と福島では、温度差が大きいのだと感じました。(H.Y)

★「新基準」が施行されようとしておりますが、今日の講演で、マスコミの論調等を含めて、背景がよく整理できました。(K.F)

★専門的で難しかった。コストが合わない原発を誰が進め、誰が動かし、誰がその全体をチェックするのかが不明であることが示された。「規制する」それらの論点の提示と議論の場つくり続けることが大切だと思いました。(T.S)

★規制委員会(かなり問題ある)を、時には励ますことも必要かな、という言葉が印象的でした。大変勉強になりました。(N.S)

★規制委員会がどのような動きをしているか、基準の問題点が非常に分かりやすく話していただきました。論点が明らかになりました。ありがとうございました。公募は終わりましたが、今後は注意していきたいと思います。

★双葉町出身です。まだ立ち入ることのできない状況を生み出した経緯をしっかり受け止め、再発防止に全力を注がなくては。それとともに、故郷を残そうとの思いが、悪く利用されている事柄(中高一貫校に象徴される)にも、しっかり対峙していかななくてはならないと思っています。(S.K)

★規制委員会ができた経緯から話を進めていただければ、もっと理解できたのではと思いました。(Y.I)

★むつかしい問題提起であった。規制委員会を今日のように問題にするのであれば、一点に過大な問題を集中させすぎている。改めて原子力学会、関係政府省庁、首相府官邸、各種審議会、自民党、諸政党、マスコミ、「原子カムラ」の「その後」、世論、国民の意思のシステム等の構図、全体像を問題にすべきではないか。(S.I)

★今まで規制委のことをあまり知らなかったので参考になった。しかし、話を聞く限りでは規制委に完全な中立性は望めないと感じた。やはり草の根の運動か広報で、原発の問題点（コストなども含めて）を普通の市民に集中させていくしかないのではないか。（S. I）

★基準の話は、難しいことを比較的分かりやすく話していただいた。その後の規制委についての議論は、もっとおもしろかった。（Y. I）

★規制委の位置づけについて議論になりました。そのことでの感想ですが、国民のために本当に役に立つものにするには、1から作り直す必要があると思います。しかし、真木先生の提起の通り、世論によって規制委が誕生したように、世論によって一定有用な働きをさせることもできると思います。世論の形成こそが重要であり、単純な「反対派」との論争にとどまらない国民的議論が必要だと思います。その時に、原子力に頼らない方針を持った福島県と県民が、何を発信するか、どう働きかけるか、探求すべきことと改めて感じました。（K. M）

★改めて、福島県民が声をあげて行く必要性を感じました。（K. F）

★「次に大きな事故が起きるとすれば日本だと思っていた」。フランス原子力委トップの発言だそうです。安全神話の罪深さ、大変なことなどなかったことにする国民性……。伊東さんのご指摘の通り、規制委の行方を、厳しく、時には温かく注視していきたいと思います。（A. Y）

★問題の整理に大変役に立ちました。ありがとうございました。討論の整理が不十分で済みませんでした。（S. M）

★合意が容易ではない難しいテーマを扱って頂いて感謝しています。規制基準と安全基準、沸騰水型炉と加圧水型の対応の違い等、勉強になりました。7月の基準案決定までに、関心を持って、規制委員会の具体的な動きも注視していきたいと思っています。財界の再稼働プレッシャーの強まりの中で、福島の10基すべての廃炉への声を高める必要を感じました。（T. K）

☆【希望するテーマ等】

- * 帰還しない選択をした人に対して、新たな生活をどう支援するのか。
- * 自然と放射能汚染
- * 原発事故と地域経済

=====

【予告】

第40回ふくしま復興支援フォーラム」（2013年6月20日（木） 18時30分～）

テーマ 「現時点における原子力損害の賠償状況とその問題点」

報告者 渡辺淑彦氏（弁護士／いわき市）

会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」

大活動室1

（MAX ふくしま4F／福島市曾根田町1-18）

=====

（5月9日の会場カンパとして24,551円が寄せられました。有難うございました。）

おだがいさまセンターはどこに向かって進もうとしているか

— 被災者支援と社会教育の可能性 —

元ビッグパレットふくしま避難所県運営支援チーム

福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター

天野 和彦

- 「ふるさと」がなくなるということ
 - ・ いくつか必ず・・・ある女子高生が語った夢とは？
 - ・ 災害支援に必要な力・・・企画力?行動力?
- 「生命を守る」そこからの出発
 - ・ 時間が止まった場所・・・これは人権の問題だ!
 - ・ 避難経路図がない?!・・・大規模避難所が危機に追い込まれた理由
 - ・ 私たち毎日が恥ずかしいんです!・・・生まれた専門機関との協働
- 生命を守るためには自治活動だ! -阪神と中越から学ぶ
 - ・ 阪神・淡路の震災時になぜ仮設住宅で多くの孤独死が生まれたか
- ※ 交流の場の提供と自治活動の促進
 - ・ そんなの効果あるの? - 足湯とサロン(喫茶スペース)が彼らを変えた
- おだがいさまセンターの経験から
 - ・ 組織的・体系的に交流と自治を促進したい-おだがいさまセンターの設立
 - ・ おだがいさまセンターの活動に確信を持った日 - Bホールにできたはじめての自治会
 - ・ 住民の願いをかたちに・・・夏祭りをなぜ開催したのか
- 防災のまちづくり - 地域課題の顕在化 大船渡市赤崎地区公民館の取り組み
 - 防災なんて必要ない? - 社会教育の可能性・・・人がつながっているまちづくり
 - 住民・NPO・高等教育機関・行政のお互いの役割分担を!
- 富岡町の支援モデルから
 - ・ いい加減にしてくれ!・・・おだがいさまセンターへの一本の電話・役割分担をどうするか - 被災者支援連絡協議会の結成へ
 - ・ 県外避難者をどうする? - 支援の枠組みづくり
- ショートゴールとしての生活支援
 - ・ 生命を守る基礎づくり・・・ICTの技術を活用したシステムを創るんだ!
 - ・ 生きがいと居場所づくり・・・仮設公民館の役割と雇用創出のためのしくみづくりへ
- 生活再建のために - いまこそ社会教育の出番だ! - 避難所運営と社会教育

- ロングゴールとしての生活再建
 - ・ 仮の町で希望はつくれるのか・・・セカンドタウン構想について
- オール福島だ! オールJAPANだ!
おだがいさまセンターって災害がなくても必要だ! - 全国にセンターを!公民館じゃだめ?
被災地責任ということ・・・ふくしまの知恵の集積を! 「ふくしまをあきらめない」

「生きている 生きてゆくービッグパレットふくしま避難所記」の発行__